

11/19

谷村和典 (谷村綱夢)

俳人編集者の四季

「絵金」の一人芝居に情熱を傾ける人々へのエール

◆土佐の高知ゆかりの表現者たち

今年も高知出身の音楽プロデューサー、上田有さんから「しばてん魂レヴュー」公演のフライヤーが届いた。今の人たちはヒラやチラシをさついう。飛行機などで空からまくのでそういう言い方になったそうだが、今回のフライヤーは空中ならぬ地下室での公演の知らせだった。

土佐の高知ゆかりの表現者による魂の宴「高知しばてん魂レヴュー」の第9回目。こついう音楽や演劇の公演は生の魅力が何よりなのだ、この「しばてん」などは、表現者の汗がかかるような小さなスペースで行われるので、いっそライブ感がつる。こたえられない。さらに、そこに土佐の息吹が満ち満ちているとすれば、土佐人としては当然病みつきになる。

10月19日の日曜日の午後。ネオン瞬く夜とは全く違った表情を見せる新宿・歌舞伎町のビルの一隅からふつと姿を消すように、地下へ、狭い階段を下りていく人々がいる。向かう先は、数々の伝説のライブを生んできた「新宿ロフト/フラスワン」。そこは、知る人ぞ知る「非日常空間の聖地」である。

今回の表現者たちは、もう常連というべき面々で、高知出身のデルタブルース伝道者「ロイヤル」。クセになるお笑いコンビ「ツウライス」は大ちゃん、土佐清水出身。高知出身の富岡ツカサがボーカーのロックバンド「ヘンシモ」は2年ぶりの登場とか。皆が酒を片手に「やっていきちや」でのツカサくんとの掛け合いを楽しみにしている。

「やっていきちや」は、僕などはこれこそ「土佐の魂の歌」と言っているけれど、酒飲みのオンちゃん「上がっていきちや」「やっていきちや」・・・チャ・チャとノリよく誘ってかれて、そうはいかんとすると「まったいのう」と叫ぶ運び。ステージ、客席一体となった「マッターイノー」の連呼で地下の狭小スペースは異世界に移行する。

◆絵金をやるのはこの男！

今回の「しばてん」の呼び物は、渦ヨココの総合プロデューサー、神山てんがいの作・演出・出演による、幕末の土佐の絵師金蔵、絵金の生涯を演じる一人芝居「絵金縦遊伝」の上演。薄暗く狭いスペースには、あのおどろお

どろしい絵金調を模した絵があちこちに貼られ、早くもただならぬ雰囲気。

プロデューサーの渦はシンガー、サクセス奏者、俳句朗読パフォーマーとして独特の活動を続けている女性アーティストだが、もちろん「渦ヨココ」というインパクトのある名前になる前は、香南市野

市の浜渦さん。隣町赤岡の絵金の「怖い絵」のことは子供の頃から知っていたが、「怖いので」実際に見たことはなかったという。

僕自身のこと言えば、1955(昭和30)年前後、小学1、2年生の頃に安芸市川北の大師堂の夏祭り参道に立てられていた「血みどろの時代劇調の絵」を見

た記憶がある。当時は世間も今のよう絵金を「評価」していなかったように思う。

2度目の「絵金体験」は、絵金を主人公にした71(昭和46)年の映画「闇の中の魅惑魍魎」。旧制高知高校に学んだ中平康の監督作品で、主演は、あの鷹赤児。美術専攻の学生などは、こういう「芸術的」な「話題作」についてウタウタ言うのが大好き。僕もその一人だった。

パフォーマー渦さんが、2度目に「絵金」に出会うのは21世紀になってからのこと。こんなスーパーアーティストが自分の故郷にいたのか、という「再発見」の驚きと共に絵金にのめり込んでいく。

まず香南地域での「横の連携」を目指してジャズフェスティバルを企画し、絵金をシンボルとして進めたものの・・・とん挫。その後、薩摩琵琶を学ぶ中で「一人語りの絵金物語」を着想、そこから「一人芝居の絵金が構想されていった。その頃に出会ったのが一人芝居などの演劇活動をしていた神山てんがさん。「絵金をやるのはこの男しかない」とひらめいて、「絵金をやろう、やろう」と口説きにかかる。東京育ちの神山さんを



今回の「絵金縦遊伝」は「しばてん魂レヴュー」のための特別版。芸術への精進と民衆への近さが、神山てんがいの身体を通じて熱く表現される (撮影・Fujiyama)

「こかく絵金に傾けてくれ」と絵金祭りの赤面「連れて来るといから始めた」といつぞれからの30年。「まるで拉致状態。絵金なんて何も知りませんでした。やろうと僕が覚悟を決めるまで3年かかった、ということですよ神山さん。出来あがった第1作「絵金縦遊伝」月の渚に啼けよよい」の初演は2012年の12月。その後、絵金の妻との「二人芝居」版があり、今回の「絵金縦遊伝」鶴橋公腕ノ筆刀」が第3作目。若き日の絵の修練や挫折、陰陽師との因縁などを縦系に、芸術の神との相克、土佐の人々との愛憎を横系に、懐かしい土佐弁の台詞がほとばしる、熱気あふれる舞台が展開された。

今回は、語りの部分で渦さんも出演。「明治生まれの祖母たちが使っていた古い土佐弁は、幕末を生きた絵金たちにつながる重要な要素。でも、膨大な台詞の量やき、てんがさんが大変だったと思っわ」といえば、神山さんも「いわゆる標準語でやるか、とも考えましたが、やはり土佐弁でやらなければ土佐に生きた絵金の物語にならない。完璧に、というわけにはいきませんが、必死に取りこんでいます」と応える。

そうした情熱が赤岡や高知でも支持の輪を広げる力となっている。僕もすっかり神山てんが「絵金」のサポーターになってしまった。(室戸市出身、東京都在住)

学習

娘さんが里帰りして出産、1カ月余りになるとい、しいと毎回モリモリ食べてうんちさんが話す。

曲

イラスト・とよた かずひ

団には加わらず、腕を組んで窓外をじっと見続けていたり、テレビを数人で見ていたり、読書したり…。みな黙っている。

優れもの!?

○…わが家に新しいおもちゃがやってきた。体重計として買ったが、説明書には「体組成計」と、高尚な名前が書いてある。指示通り、生年月日や身長など基礎データを入力していくと、地域設定まであった。重

○…先日、四万十市「片魚」の地名の由来が、「遠い遠い昔」の天津波で運ばれた魚を2人の男が片方ずつに分けたという昔話だと紙面で紹介したら、地元の人からも「初めて知った」などと反応があった。